ーキル○ーベイベーＣＧ集ー
勃起せざるを得ない？！
「コレぇ♥ このスラスラっキモイぃぃ～♥」
「2発ヌいたくらいじゃ全然おさまんないよな」
「このHロボ○ボは♥」
●萌えづくり王国●

「うお～♥
ソーニャちゃんのしまパン～
穿いてくれてカンゲキですぞっ♥」

「ったく…
好きなんだろ
しましまのが」

わ～あ～っ!!!

「うんうん♥
金ぱつツインテールには
しまパンだよ♥」

ふに♥ふに♥ふに

「まったくイミが
分からん…
あうっ♥
ちょっ…指い」

「ま○こフニフニい♥
恥ずかしがってるソーニャちゃん
カワええなぁ♥」

「うぅ…
どーしてこんなヤツ
好きになったんだ私…」

「あぅん♥
いきなりおっぱいから
きちゃうかぁ♥」
「ほらだって
やすなのおっぱい
揉み心地いいし♥」
「えへへ～♥
そうかなぁ
ちっちゃいから自信なかったけど
うれしいな～♥」
ぱぁ♥
もにゅ♥
もにゅ♥
もにゅ♥
ぱぁ♥
も～おっぱいフニフニしすぎ～♥
「そりゃもう
オレ貧乳派だし♥
見てみ
やすながエロカワイイから
もうチ○ポビンビンだぜ♥」
「うわっ♥こりゃスゴいっ♥
ボッキだねっ♥
フル勃起してるんだねっ♥」

「ほらほら
チ〇ポ舐めてっ♥
あっ
パンツ見せながらね♥」

うおお～

ヒクッ

ヒクッ

「ホントにコイツは・・
こ・・これでいいんだろっ」

「うっひゃー
こりゃ絶景ですわ～♥
こんなの見せられたら
チ〇ポカッチカチになっちゃうよ♥」

ん♥

ちゅぱ

ちゅっ♥

ちゅぴっ♥

ちゅぱ

ちゅっ

ぷはぁ

ふぅ

「んっ♥ ふぅ♥
デカすぎだろコレぇ・
しゃぶるの大変なんだぞ♥」

「ち〇ぽぉ♥
おっきいチ〇ポぉ♥」

「んお？
ま〇こすっげー濡れてきたよ
チ〇ポ舐めてコーフンしてきた？」

ひっ♥

ヌちゃ♥

ヌチュ

ヌチュ

ヌチュ

うひぃ♥

「だ・・ダメっ！
イジるなぁっ
今そこクニクニされたらぁ♥」

「うおぉ♥ソーニャちゃんの
しまパンまん〇こぉ♥
うはっ!!イキそっ♥
セーシでそっ！
デるっ!!
射精るぅぅ!!!」

じんじん♥

びゅっ

ブビュ

ビュるっ♥

びゅっ

ぷぼぉ♥

「んぷぅ!!んあぁ♥
あ～もぉ♥
イクの早すぎぃ♥」

「うんうん♥
今日も暴れん棒さんだねぇ♥」
うひゃ～♥
ケダモノぉ♥
「最初は冗談のつもりで
ワキズリしてって言ったけど
ハマるよなこれ♥」
「先っぽムケてきたぁ♥
デっかいな～♥
無理で～す
こんなの絶対挿入いらないよ～♥」
「ったく何言ってんだか・・
いっつもま○このオクまで
おいしそうに咥え込むくせに♥」

「・・・おいっ
こんなのまだ使ってたのか？」
「あっ・・隠してたのに・・
ま・・まぁひとりでしたい時だってあるし・・
こ・・この中のイボイボが何とも言えない
キモチよさで・・」
「ふ～ん
私がするのよりこっちのほうが
イイってことか・・」
ぴくっ
にちっ
にちっ
にちっ
「いやいやいや
ソーニャちゃんにやってもらうほうが
ぜ～んぜんイイに決まって・・えっ!?」

「じゃあコレを私が使えば
カンペキだよな～♥
覚悟しろっ♥」
「ひっ・・いっ!!
はやいぃ!
シゴくの速すぎだってっ
イっちゃうっ!! イクっ!
ちょっ・・ちょっとまっ・・
づっ・・づぁぁぁぁ!!!」
ぴゅぴゅ
ぴゅぴゅ
ぴゅぴゅ

「ふほぉ♥
やすなフェラ上手すぎだろ
やっぱ練習とかしてんの？」
ぴちっ
くりゅ♥
くりゅっ
ふぅ♥
んっ
「んっ♥
れんひゅうひてるよぉ♥
おひんひんひゃふるのらぁ～いしゅき♥」
ちゅっ
ちゅ～♥
ちゅっ
ちゅぱっ♥
ちゅぴ♥
んぅ♥
「んをぉぉ・・そこソコっ♥
このハーモニカ吹くみたいにしゃぶるの
キモイよすぎぃ♥」
「イひそっ♥セーにれそっ♥
はやくピューってちひてぇ♥」

「のぉァ♥
サオとタマのあいだのトコ
ちゅっちゅされるのたまらんっ♥
も・・もうっ！」
ぐぉぉ…
イっくぅぅ!!
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ビュッ!
「ひんぽパンパンにふくらんれりゅ♥
らひて♥らひてっ♥」
ぷぃぅ
ぷぃぁっ♥
づぉっ♥
「おオおおお!!
や・・やっぱり今日も秒殺かぁ
くっそ～♥」
「えへへ～♥
セーシいっぱぁい♥
顔じゅうベタベタだよぉ♥」
「よ～し
つぎはこっちのターンな
やられたらヤり返すってやつだ♥」

「2発ヌいたくらいじゃ
全然おさまんないよな
このエロチ〇ポは♥」

「ソ・・ソーニャちゃん
あれやってっ
足コキっ♥足でシコシコっ♥
あっ、もちろんパンツ丸見え状態で♥」

「このヘンタイが・・
ほぉら♥これでイイんだろっ♥
もうイキそーな顔しやがってぇ♥」

「いひぃ♥
親指で裏スジこするの
キモチよすぎて頭オカシくなるぅ♥」

おっ
うぉっ
ぬりゃ
ぬりゃ
ぬりゃ
ぬりゃ
ぬぉぉ♥
ぐり
ぐり
ぐり
ぐり
キュン♥
イけっ♥
♥

「きぃ・・キンタマふにふにたまんねー♥」
「なさけない声出すなよな～♥ほれっ♥イけっ♥靴下セーエキでドロドロにしてみろっ♥」
「あ～イクっいぐぅ!!射精ちゃうぅ！踏んでっ♥おもいっきり踏みつけてっ！」
「ひあっ!!このドMっ足蹴にされてイクなんてどんだけマゾってるんだよ～♥」
ブビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ドパッ
ドパッ
イクイクっ！
うはっ♥
ドロドロだな♥

ひにゃ♥
あ・・・ああァ♥
「ほらっ
足開いてっ♥」
「う～
コレやっぱり慣れないなぁ
何度やってもハズかしいよ～」
「にひっ♥
やすなのマ〇コマジでエロいわ～♥
ここだろっ
やすなのヤる気スイッチ♥」
「そこっ♥そこぉ♥
押されちゃってるぅ
ヤる気スイッチ押されてりゅよぉ♥」
「うんうん♥
イイ具合にヌレてきたよな
チ〇ポ挿入れるぞっ
いっぱいセックスしてやるからっ♥」
マちょ♥
マチっ
マチっ
にちゃ♥
にちゃ♥
にちゃ♥
マちっ♥

「ね・・ねぇ
そろそろソーニャちゃんのナカに・・」
「まだダメだ
もう一回射精しろよ
まだお前のセーシ飲み足りないし♥」
ソーニャちゃんのま○こ～♥
むにっ
こ・・こらっ
吸いすぎ～♥
ちゅ～～～♥
ちゅ♥
ちゅぱっ
ちゅ♥
シコ
シコ
シコ
ん♥
「ま・・またごっくんするの？
前まで精子飲むのあんなに
イヤがってたのにぃ♥」
「うひぃ!!
ま・・ま○こ噛みながら
しゃべるなぁ
はぁ♥はやくイってぇ♥
セーシいっぱい飲ませてぇ♥」

「ふおおお!!
ソーニャちゃんが精液
飲ませてってエロすぎるぅ♥」
オオぉ
でるぅ♥
「いちいち口にするなぁ
んっ!? チ○ポの先が膨らんできたな♥」
じゅわ
「きぃ・・きんたまモミモミダメぇ♥
先っぽチューチューだめぇ♥」
んぶっ!
ブピュッ♥
ぷぴぴ
ぷぴ
ビュ♥
ブピュッ
ビュッ♥
ぷぁ♥
づっ
「よおしイくよっ!デるよっ!
たっぷり味わってねっ♥
うぉぉぉぉぉっ!!!」
「んぷぁ♥んんっ♥
すっごい量ぉ♥
チ○ポミルクだぁいすきぃ♥」

「やすなのマ〇コって
チ〇ポ大好きだよな～
デカチンでも余裕で咥え込んでくるし♥」

「そ・・そう？」

おっ♥

ちぃ・・ちん〇ぃん

はぁ

はいってくるぅ♥

「ユルユルま〇こかと思ったら
ナカでグニュグニュって締め付けてくるし
サイコーだよホント♥」

「うぅ・・うれひぃ♥
もっとぉ♥もっとオクまで
ずぷ～ってヤってぇ♥」

おぉっ♥

「あっ!! ここココっ♥
ちょーどカリのところがマ〇コ肉に
コリコリってこすれるんだよ♥」

ぎゅっ

ぬぷぷぷ…♥

ニュプ

ぢゅぷ♥

ニチャ

ズニュ♥

ぎゅっ

「ぐおオ♥・
チ○ポちぎれそぉ・
ソーニャちゃんのスマタ
キョーレツすぎるぅぅ♥」
「まだイくなよ♥ ガマンしろ・
ほんとエラソーなのは
チ○コだけだよなっ♥」
「だぁ・・だってぇ
股の締めつけだけでもたまらんのに
マ○コがブチュ〜って吸い付いてくるんだもん♥」
「またヤラしい言い方を・・
ひあっ!!
こ・・こらっ
チ○ポ擦りつけすぎだっ！」
「ふ・・ふたなりだぁ♥
ソーニャちゃんにち○ちん生えた
みたいに見えるぅ〜♥」
ふぁ♥
デっかいの生えてるぅぅ♥
ブチュ♥
ブチュ♥
ブチュ♥

「すっごく拡がるぅぅ♥
お○んこおもいっきり
拡げられてるよおお♥」
「あ・・相変わらず
すっげぇキモチいいっ♥
チ○ポ全体がねっとりと
締め付けられて・・」
やすな
やすなぁ
あひっ♥
ちん○ん
あたってるぅ♥
んぁ♥
ひっ♥
ぎしっ
とろ〜〜♥
「んはぁ!! そこぉ♥
もっと突いてっ♥ツいてっ♥
しきゅーの入り口のトコ
チ○チンでちゅっちゅっしてぇ♥」
「あぁもうエロカワええなぁ〜♥
もっともっとやすなのマ○コ
ぐちゃぐちゃにしてやるからなっ♥」
ずぷっ!
ずぷっ♥
ずぷっ♥
ずぷっ♥
ずぷっ♥
ずぷっ♥
ずぷっ!
チュッ♥
チュッ♥
チュッ♥

「そ・・ソーニャちゃんっ!!
チ○ポ締め付けすぎだよぉ♥」
「ひゃあん♥
そぉ・・そんなコト言われてもぉ
チ○ポデカすぎるからぁ
勝手にぎゅーってしちゃうぅ♥」
「うっ・・動くからぁ
ちょっと力抜いてっ」
「ぅあぁぁ♥
かき回してるぅ♥
あぅっ♥
すっごい音立てて
かき回されてるのぉ♥♥」
はぁ
はァ
ひィ♥
き・
キッ♥
んっ♥
ジュプっ
ブプっ
ジュプっ
ブプっ
ジュプっ
ジュプっ
ぶちゅ♥
ぶちゅ♥
ぶちゅ♥
ぶんっ
ぶんっ

「ほらっ
次は自分で挿入れてみ
ずぶぅ〜って腰を落として♥」
ふぁぁ
あっ
「ふぁぁぁぁ!!!
やっぱりこれキツぅい!
ま○こバカになるぅ
コワれちゃうよぉぉ!」
ひっ
おっきいよぉ
「壊れるどころか
おいしそうに咥え込んでるし
初めてこの体位でヤったときもよゆーで挿入っただろ〜♥」
「えへへ〜♥そーでしたっ♥
ほらぁズブズブ〜ってされるとき
こんなの無理〜ってするのカワイイかなって
動いてっ♥
下からい〜っぱい突き上げて♥」
ずにゅっ!
ズプっ
ズプっ
ズプっ
ズプっ
ちゅ♥
ちゅ♥
ガク
ガク
ガク
ガク

「うっひょ～♥
ソーニャちゃんのおしり
丸見えだよ♥」

ひっ

そ…
そんなトコ
見るなぁ

バカっ

「ちょっ・・おいっ！
じっくり見るなぁ
ひっ！
拡げちゃらめっ・・」

ソーニャちゃん
カワイィ～♥

「くぱくぱヒクヒクしてて
かっわいい～♥
こっちにも挿入れてみたいんだけどダメ？」

「無理ムリいっ!!
いきなりそんなデカいのねじ込まれたら
裂けるだろっ
挿入れたら殺スっ!!」

ヒク、
ヒク、
ヒク、
にゅっ～♥
ぬちぃ♥
ぬちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ

「わ・・分かったよ～
ごめんごめん♥」

「コレぇ♥
このズブズブぅキモチいい～♥」
「ほらっ
やすなの一番奥のとこに
挿入ろうとしてるだろっ♥」
ちんほぉ
ひぐるぅ
あぁ
はぁ
はぁ
はひぃ
「うんっ♥
挿入ってきてるぅ♥
赤ちゃんのお部屋に
ち○ちん入ろうとしてるよぉ♥」
「くおっ!!
きっつキツだなっ
先っぽしかはいんねー♥」
ズブッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズブッ!
ニチュ
ニチュ
ニチュ
キュッ♥
キュッ♥

「あ〜っ♥ダメだっ
もうイキそっ♥
なっ♥いいよなっ
やすなの奥のオクにピュッピュしてもっ」

「きてっ♥せーしキてっ♥
避妊してるからぁ♥
おもいっきりドピュ〜ってしてぇ♥」

「よぉし
イクからっ♥ビューするからっ
ぐうっ・・あぁぁアア!!!」

「ひいいいい♥
デてりゅうう♥
しゅきい♥コレしゅきいい♥
奥にせーえき射精されるのサイコぉぉ♥」

ドピュッ
ドピュッ
ドピュるるるっ
ビちゃ ビちゃ
ぶびゅっ
びっ
びっ
びゅっ♥
ブピュ
ブピュ
ピク
ピク
ピク
はぁひィィ♥
ドピュッ
キンたまぁ♥
づぉぉ♥

「こうしたら
もっと奥に当たるでしょ♥
ほら分かる？しきゅーロに
チ○ポ当たってるの」

「うんっ♥分かるぅ♥
チ○ポきてるぅ♥
もっとオクまでズブぅ～ってぇ
貫いてぇ♥」

「くはあっ!!
そ・ソーニャちゃんっ!!
しめつけすぎっ！
そんなにキツくしたら
デちゃうよぉ♥」

「はぁ・はやく射精せよぉ♥
もうチ○チンから
ビューって噴き出しそうなんだろっ♥」

ぬぷ。
ひっ
しまるぅっ！
ぴゃっ♥
きゅうぅっ♥
ひぁっ
ぶちゅ。
ぶちゅ。
ぐちゅ。
ぐちゅ。
ぐちゅ。
ぐちゅ。
ぐじゅっ♥
ぐじゅっ♥
ぐじゅっ♥
ぐじゅっ♥
ぐちゅ。
ぐちゅ。
ぐちゅ。
ぐちゅ。

「あぁ～！
デるっ♥シャセーしちゃうっ♥
ソーニャちゃんのちっこいマ○コに
ぶちまけちゃうぅ♥」

「ほらっ♥
これでトドメだっ
イけっ♥いけぇ♥」

「ぐぅほおおっ!!
だ・・ダメっ！
マン圧すげぇよおお！
イクっ♥イクぅぅぅ!!!」

「にゃあはぁぁぁぁ!!!
キてるっ！セーシきてるっ♥
にゃがれこんでくるぅ♥
せっくすやめられないぃぃ
きもちよすぎぃぃぃぃ♥♥」

ぶびゅるるるっ
ビュッビュッ
ブビッ
ブビッ
ブビ

ずぷぷぷぷ…ズにっ
ぷちゅ
ぷちゅ
ぷちゅ
ぷちゅ
ヌチッ
ヌチッ
ズにっ
ヒクッ
ヒクッ
「まだまだぁ！
こっちもだろっ
おしりの穴も欲しいんだろっ♥」
「ふほぉオ!!
きたぁ♥
オシリきたよぉぉ♥」
ひぃ…
ヒクヒクっ♥
ちぃ…
ちぉぼぉオ♥
「シリ穴もスゲぇ～♥
やすなは全身名器だよな
チ○ポの喜ばせ方
知り尽くしているみてーだわ♥」
ひぃ♥
はぁぃ♥
「うんっ♥分かるのぉ♥
ここでしょ♥
こうやってキュ～ってしたら
ち○こキモチいいんだよねっ♥」

ブビュルッ!
ビュッ
ビュッ
ビュッ
プビッ
プビッ
ぴゅ
ぴゅ
ぴゅ
ぴゅ
ぴゅ
「デそう? 射精しそう?
残りぜ~んぶ
ドピュドピュしてねっ♥」
「あ~もうタマラんっ♥
そんじゃ思いっきり
ブチまけてやるからなっ♥」
はぁ
ひっ
「キてっ!
はやくぅぅ♥」
おひりに
セーシきたぁ♥
せーしぃ♥
あぁぁっ
ぐおっ!
おおぉぉっ
「イクっ!! イクいくイくぅ!!!
止まんねぇ♥セーエキ
止まんねぇぇぇ♥」
「うおぉぉぉ!!! しゅごいいい♥
飲んでるぅ
おしりが精液味わってるぅぅ
イッキ飲みしてるよおおお♥」

「や～ゴメンごめん
授業中だけど上手く抜け出せた？」
「このバカっ!!
バレたらどーするんだっ」
「でもさぁ
ソーニャちゃんのスク水見てたら
チ○コがこんなになっちゃって
言われた通りオナ禁してるんだから
しょーがないでしょ♥」
「あ～もうっ！
しゃぶればイイんだろっ
まったく・・こんなに
ビンビンにしゃがって♥」
じんっ…
早く射精せよっ
ちゅぷ
ちゅぷ
ちゅぷ

「ぬあぁ♥ダメだぁ
ごめんっ！イクっ♥
もうイっちゃうっ♥
オナ禁せーえきゴックンしてねっ♥」
「んちゅ♥んっ♥
らひてぇ♥
コいのいっぱいのまへてぇ♥」
「あっ・・あぁあっ
イっぐうううう!!!」
「ぷぽおお!!
んっ・・・ぷはっ
すっごい濃厚だなぁ
ノドに絡んで飲み込めないし♥」
ぷぽおお・・♥
ブぴぴぴ

「いやぁ♥ダメだよぉ、
明日体育があるのに
そんなお尻ドックドクさせちゃってなっちゃう～♥」
「うへへへ♥実にイイ♥
体操服&ブルマ、
この中はどうなってるんだろうなぁ♥」
「ひぁっ!!
お○んぽ入っちゃうぅ♥
したくなっちゃう
えっちしたくなっちゃうよぉぉ♥」
「濡れてる濡れてる♥
もう大洪水だぞっ
オレももうチ○ポ爆発しそうだ
なっ
挿入れてもイイよなっ
ま○ぐちゃぐちゃにしてもイイよなっ♥」

「やっぱり一発ヌいたくらいじゃ
ダメだよ～・
挿入れるねっ♥」

スクぬっ
スクぬララ

「し・・仕方がないな
ちょっと待て
水着脱ぐから・・」

あぁあ
ちんぽぉ

あぁぁ

「いやいや
こうやってズラして挿入でしょ♥
スク水なら・・ねっ!!」

ふぉっ

「ふあぁぁぁ!!!
こ・・こんなのぉ
マニアックすぎだぁ♥」

ぐにゅぅぅぅ
ミチッ
ミチッ
ミチッ
ぐにゅっ
ぐにゅっ
ぐにゅっ
ぐにゅっ
ずぷっ
ずぷっ
ずぷっ
ずぷっ
ずぷっ

「おっと
おっぱいは出しとかないと♥」

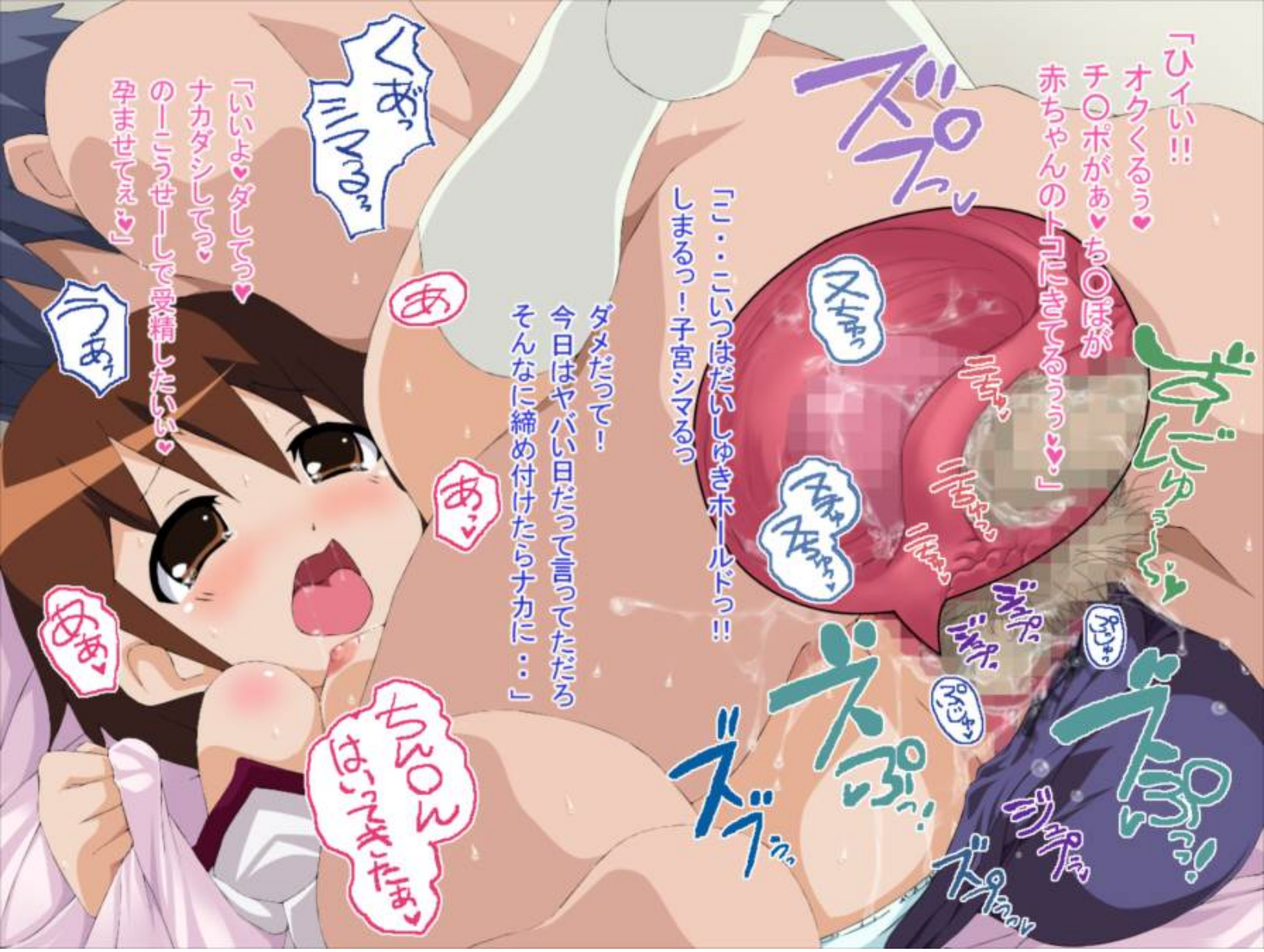
「はぁ・・早くイけよぉ
さっさと戻らないと
ヤバいい・・・はうぅっ!!」

「うおヲヲ・・
キツキツま○ことスク水がこすれるぅ
ダブル攻めかぁぁ♥」

「はぁ♥はぁ♥
らめぇ♥いっちゃうぅ♥
はやくぅ♥早く射精しろぉぉ♥」

「うんっ!
射精すよっ!! おっ・・おオっ
イクうううう♥」

「んぁぁぁぁぁ!!!
流れ込んでくるぅぅ!!
せーしぃ♥せぇしゅいいいい♥」


「ひィい!!
オクくるぅ♥
チ○ポがぁ♥ち○ぽが
赤ちゃんのトコにきてるぅぅ♥!」
ズプっ
ずぐじゅぅぅ~♥
ズプっ!
ズプっ!
ズブ
「こ・・こいつはだいしゅきホールドっ!!
しまるっ!子宮シマるっ
ダメだって!
今日はヤバい日だって言ってただろ
そんなに締め付けたらナカに・・」
くぁっ シマるっ
あ
あ♥
ちん○ん はいってきたぁ♥
ぁぁ♥
うぁっ
「いいよ♥ダしてっ♥
ナカダシしてっ♥
のーこうせーしで受精したい♥
孕ませてぇ♥」

「ちん○んビクンってなったぁ♥
射精るんだよねっ
イってっ♥早く♥はやくぅ♥」
「くぅ〜っ！
あ〜もうガマン出来ねーっ
ダすぞっ♥子宮射精するぞっ
づづっ!!
イクっ!! イグううう!!!」
「のほおおお!!!
ミルクきたぁぁ♥
受精してるうう
妊娠かくてぇいい♥♥」
ぶびゅっ
ぶぴゅっ
ぶぴゅっ
ぶぴ